

第1学年 生活科学学習指導案

ろ組 男子 20名 女子 20名 計 40名
指導者 岩本博裕

1 小単元 きれいな花をさかせよう

2 小単元について

(1) 小単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、小学校に入学してきたばかりで、学校生活に対して大きな期待と不安もっている。また、6年生のお兄さんやお姉さんから給食や掃除の仕方を教えてもらったり、学校探検の活動等を通して、少しずつ学校の様子が分かり学校生活の楽しさを実感して、人と適切なかかわり方ができるようになってきている。そして、2年生からあさがおの種をプレゼントしてもらったり、育て方を教えてもらったりして、『自分であさがおを育ててみたい』『きれいな花を咲かせたい』という思いや願いをもつようになってきている。

そこで、本小単元では、あさがおの種まきや水かけ、追肥、支柱立て等の活動に、子どもたちを主体的・能動的に取り組ませる中で、自分の思いや願いを達成していく楽しさを味わわせながら、活動への意欲を高めようとするものである。同時に、**実際にあさがおに触れる等諸感覚を働かせてかかわったり、育て方を友達に聞いたり、図鑑で調べたりして世話ができるようになるとともに、あさがおは自分と同じように生命をもっていることや生長していることに気付かせようとするものである。**また、これらの活動を通して、道具の正しい使い方や後始末の仕方を身に付けたり、自分自身のよさや成長に気付かせたりすることもねらっている。

なお、この学習を通して、子どもたちが培った世話の仕方やその調べ方等の活動への取り組み方は「生きものとなかよし」の学習での活動への取り組み方に生かされるものである。

(2) 指導の基本的な立場

あさがおは、生長の変化や様子がとらえやすく、生長するにつれて多様な世話が必要となり、子どもが様々な気付きを深めながら世話をすることができる植物である。また、夏には、数多くの花を咲かせ、押し花や色水遊び等子どもの遊びを豊かにすることができる。そして、種が獲れることから、生命の連続性に気付いたり、子どもたちの成就感や関心を持続させたりすることができる。**さらに、容易に栽培することができ、様々な植物への興味や関心をもたせることができると考える。**

このようなあさがおを育てる活動に子どもたちが主体的に取り組む、あさがおや友達とのかかわり合いを深めるために、諸感覚を使った栽培活動を通して生まれる気付きを大切にしながら、次の活動を考えさせるようにしたい。さらに、友達とかかわりをもつ中で、あさがおへの生命の連続性についても考えさせるようにしていきたい。

具体的には、「あさがおのたねをまこう」の活動で、2年生からプレゼントしてもらったあさがおの種をじっくりと観察させたり、どんな花が咲くのか、育て方はどのようにしたらいいのかを子どもたちと話し合うことで、あさがおの栽培への意欲を高めるようにしたい。次に、あさがおが発芽したり、本葉が出てきたりしたときに、「あさがおさんのだいへんしん」の活動を設定し、**発芽の様子や葉の変化の様子をじっくりと観察できるように、観察の時間を確保し、気付いたことに対して価値付けを行っていききたい。**さらに蔓が伸びて友達のあさがおと絡まるようになったときに「あさがおさんがたいへん」の活動を設定し、どのようにしたら友達と絡まらないようになるかを考えさせたい。そして、これまで経験している子どもや知っている子どもの発言をもとに、支柱を立てることの必要性に気付かせたい。支柱を立てる際には、友達の方法や教師の説明をもとに一人ひとりが自分の手で立てることができるようにしたい。さらに、日常的なあさがおとのかかわり続け、あさがおの花が咲いたときに「花が咲いたよ」の活動へと発展し、自分の花を観察したり、カードに描いたりして、自分のあさがおの花が咲いた喜びを表現させたい。また、**種を収穫する活動では、**

獲れた種の数を数えることで、一つの種からたくさんの種ができることに気付かせ、道徳の時間と関連を図りながら、生命のすばらしさを実感させたい。これらの、咲いた花を数えたり、採れた種を数えたりする活動を通して算数科「大きなかず」の学習へ連続・発展させていきたい。

なお、活動の展開においては、一人一人の実態に応じた支援をし、お互いのよさに触れ合う場を設定したり、学習したことを生かせるような教師の働きかけを行ったりしながら、活動が連続・発展するようにしたい。

このような活動を通して、子どもたちは活動に没頭し、活動に対する成就感や満足感を味わうと共に、自分のよさや成長を実感し、自分への自信と自分の生活をこれまで以上によりよくしていこうとする意欲を高めることができると思う。

(3) 子どもの実態 (対象者 ろ組 40名, 数値は延べ人数)

〈あさがお栽培への意欲〉

○ 育てたい… 40人

〈これまでの栽培経験〉

○ 植物を育てたことがある。はい…23人

・にんじん ・オジギソウ ・イチゴ ・ひまわり
・ミニトマト・ピーマン ・チューリップ 等
ない…17人

○ それは誰と育てましたか

・保護者…12人 ・先生…8人 友達…6人
・一人で…2人

○ あさがおを育てた経験

ある…2人 ない…38人

○ 植物の世話について必要なこと

・水をあげる…36人 ・太陽にあてる…29人
・肥料をあげる…21人 ・支柱を立てる…2人

〈困ったときどうするのか〉

・図鑑で調べる…28人 ・先生に聞く…25人
・お家の人に聞く…17人 ・自分で考える…8人
・友達に聞く…3人 ・何もしない…2人

本学級の子どもたちは、2年生からあさがおの種をプレゼントされて、あさがおを育ててみたいという願いを多くの児童がもっている。

これまでの栽培経験として、23名の子どもが何らかの植物を育てた経験をもっている。育てた植物も花や野菜等多岐にわたっている。しかし、ほとんどの子どもが親といっしょに育てており、自分の力だけで育てたという子どもは、極少数である。また、あさがおを初めて育てる子がほとんどであるため、あさがおと十分にかかわるようにすることで、あさがおに関する多様な気付きをもてるようにすることが必要である。そのために、初めて育てるアサガオの栽培活動に諸感覚を使って、じっくりとかかわらせていきたい。

植物の世話に関しては、水かけや日光の必要性は気付いているが、支柱について気付いている子は

はわずかである。このことから、どのような世話が必要かを子どもたちが考えて、取り組むことができるようにすることが必要になると考える。そして、世話を通して困ったときの対応の仕方としては、インタビューすることや本で調べることが中心なので、**友達との情報交換の場を意図的に設定することで、友達と学ぶことの大切さや友達のよさを実感させるようにしていきたい。**

(4) 指導上の留意点

ア 「あさがおのたねをまこう」の活動では、あさがおを育てたいという意欲を高めるために、2年生からもらった種を観察させることで、種の特徴をとらえたり、2年生からの手紙を読ませたりしていきたい。そして、一人ひとりの子どもに種のまき方が分かるようにするために、育てたことのある子どもを中心にどのようにしたらいいのかを話し合いたい。また、今後の栽培への意欲を高めたり、成就感をもたせたりするために、できるだけ自分の手で種まきをさせたい。

イ 「あさがおさん だいへんしん」の活動では、発芽や双葉、本葉の特徴をとらえることができるようにするために、観察カードに描かせるだけでなく、実際に触らせ、諸感覚を通して感じ取らせたい。さらに、**自分が気付いたことや困ったことを紹介する中で、自分や友達のかかわり方のよさに気付かせるようにしていきたい。**また、日常的な世話の活動が持続するために、世話の仕方を工夫している子どもを紹介したり、図鑑や資料を子どもが常時使えるようにしたりするとともに、世話したことを観察カードにかかせたい。

ウ 「あさがおさんが たいへん」の活動では、あさがおの生長を実感できるようにするために蔓を伸ばして自分を背比べをさせていきたい。また、子どもたちが支柱立ての必要性に気付くために、どのようにしたら友達と絡まないようになるかを発表させ、そのよさに気付かせたい。さら

に、支柱を立てることができるようするために、教師が立てる方法は説明するが、できるだけ自分の力で立てられるように支援していきたい。

エ 「あさがおさんがさいたよ」「あさがおさんのたねのプレゼントをつくろう」の活動では、育てることができた自分に気付かせるために、一人ひとりのあさがおへのかかわりを称賛していきたい。そして、**あさがおの花を使った遊びを考えさせる中で、身の回りの草花にも興味や関心が向くように問いかけをしていきたい。**また、あさがおの生命に気付かせるために、獲れた種の数を数えさせるようにし、その種をどのようにするかを考えさせたい。さらに、あさがおの生長の様子を振り返らせるために、これまでの観察カードをもとに振り返らせ、新1年生のプレゼント作りの時に、生長についてかかせるようにしたい。

3 目 標

- 『2年生からもらった種であさがおの花を咲かせたい』という思いや願いをもとに、水かけや支柱立て等の世話をする活動に進んで取り組むことを通して、自分なりの願いの達成に向けて意欲的に取り組むことができる。
- これまでの経験を生かしたり、図鑑や資料等で調べたりして自分なりに世話ができるとともに、諸感覚を働かせて気付いたことや分かったことを絵や身体で表現することができる。また、自分が思ったことや感じたことを絵や言葉で表現することができる。
- 諸感覚を使ってあさがおとかかわる中で、あさがおの世話の仕方や生長の様子に気付くことができる。また、あさがおを大切に育てることができた自分のよさや成長に気付くことができる。

4 指導計画 (全12時間)

活動する 楽しさ	活 動 名 (意識の高まりと気付きの様相)	主 な 学 習 活 動 (時 間)	学習形態・環境構成 教師の具体的な働きかけ
○ あさがおの種をもらい、種の様子を絵に描いて発表する楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> 2年生からあさがおの種をもらったよ。うれしいな。これを育ててみたいなあ。 	前小単元 友達をたくさんつくろう	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがあさがおへ関心をもつようにするために、どんな花が咲くか挿絵をもとに想像させ、その育て方について話し合わせる。 あさがおの世話を観察の意欲を高めるために、自分の手で種まきをさせるようにする。 あさがおの生長の変化の様子をとらえることができるようにするために、その都度気付いたことを観察カードに書かせたり、実際に触らせたりして、諸感覚を使って前の様子と比べさせるようにする。 いろいろな世話の必要性に気付くようにするために、対象になりきった気持ちで発表をさせる。 花が咲いたら一人ひとりの子どもを賞賛する。 あさがおを使ってどんな遊びができそうか考えさせる。 最後まで世話できた自分に気付かせるために、新1年生へ種のプレゼントを作って振り返らせるようにする。 ※ 花や種の数え方を算数科「大きな数」につなげていく。 これまで育ててきたあさがおを今後どのようにしていくか話し合わせる。 ※ 実態に応じて、道徳の時間と関連させながら生命尊重について考えさせる。
○ 自分の力で、あさがおの種をまくことができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> 早く芽がでてこないかな。 	種をよく観察し、鉢に自分で土を入れて、種をまく。(1)	
○ 発芽した様子に気付く楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> あさがおさん だいへんしん 	種まきをしたことをカードに描き、自分の思いを発表する。どんな世話をするか話し合う。(1)	
○ 発芽から本葉が出るまでの生長の様子に気付く楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> ちがうはっぱが、出てきたぞ。 つるに毛が生えているよ。 あ、あさがおさんが大変だ。 	発芽の様子を絵に描いて、見つけたことを発表する。(0.5) 双葉の様子を絵に描いて、見つけたことを発表する。(0.5) 本葉の様子を観察して、気付いたことを発表する。また、これからの世話について話し合う。(本時)(1)	
○ 自分で考えて、世話をすることができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> あさがおさんが たいへん 	世話の方法を話し合ってあさがおに世話をしたり、支柱を立てたりする。(1)	
○ 昨日のあさがおの様子と比較しあさがおの生長を実感する楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> 支柱を立てるともう大丈夫。 すごく元気が出てきたよ。 これっぽひかな? 	自分の花の様子をカードに描いて発表する。(0.5)	
○ あさがおの花が咲き、咲いたあさがおを絵に描いて友達に紹介することができる楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> あさがおさんがさいたよ 	あさがおの花を観察しどのようなことができそうか話し合う。(あさがおの花を使った遊びを考える)(1) 夏休みのあさがおへのかかわりについて話し合う。(0.5)	
○ 新1年生のためにプレゼントを工夫して作る楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> あさがおのたねのプレゼントをつくろう 	あさがおの種まきをして、種の数を数えたり、自分の世話を振り返ったりする。(1) 新1年生への種のプレゼントの準備をしたり、活動のまとめをしたりする。(2) 世話してきたあさがおについて今後どうしていくか話し合う。(あさがおの後片付けを含む)(2)	
	<ul style="list-style-type: none"> 1年生も喜んでくれるぞ。 あさがおさん、ありがとう。 		

5 本 時 (4 / 12)

(1) 目 標

ア 『早く大きくなって、きれいな花が咲かせたい』という願いをもとに、あさがおを観察する活動に進んで取り組むことができる。

イ 諸感覚を使って試行錯誤しながらあさがおを観察する中で、あさがおの生長に気付くことができる。また、そのような活動を通す中で、自分自身や友達の取り組み方のよさに気付くことができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが諸感覚を使って自分のあさがおの観察をし、意欲的に世話ができるようにするために、**観察を通して気付いたことをことを話し合う場を設定し、気付きをつなぐかわりを行うようにしたい。**また、教師は、子どもの活動を見取り、その行為や考え方を価値付けたり、意味付けたりしながら、今後の栽培意欲をさらに高めていけるよう支援し、活動を展開していきたい。

(3) 準 備

自分が育てているあさがお、観察カード、色鉛筆、虫眼鏡 等

(4) 展 開

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
意欲をもつ	1 前時までの活動を振り返り、本時の学習について話し合う。 ・ぼくのアサがおはどうなっているかな。 ・観察してみたいなあ。 あさがおのけんこうかんさつをしよう。	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分のあさがおをもっとよく観察したいという思いを高めるために、これまでのあさがおの生長を振り返らせる。 ○ 本時の活動への意欲を高めるために、日頃から諸感覚を使って観察を工夫している子どもの取り組みを紹介する。 ○ 活動への見通しをもたせるために、諸感覚を使った取り組み方のよさや友達と比べたりまねたりすることのよさを確かめる。
活動する	2 観察の仕方を確認する 〈よく見たら……。〉 〈触ってみたら……。〉 〈匂ってみたら……。〉 〈耳をすましたら……。〉 3 自分のあさがおを観察する。 諸感覚を使って観察 見る 触る 匂う 聴く ・双葉の間から何か出てきているよ。 ・葉っぱを触ったら少しざらざらしたよ。 ・ぼくの蔓の色は、赤っぽいけどどうしてかなあ。 ・あさがおさん、「これからもがんばるからね」って言っていたよ。	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 諸感覚を使って観察したり、友達と交流したりすることによって、観察や世話を工夫できたことを価値付けるようにする ○ 新たな気付きをもてた子どもに、「どうしてそう考えたのか」「どうしてそのことに気付いたのか」等問いかけるようにする。 ○ 個への対応
振り返る	4 観察して、気付いたこと紹介する。 ・双葉の間から何か出てきている葉っぱは、本葉って言うんだよ。 ・ぼくの葉っぱも、触ったら少しざらざらしたよ。 ・ぼくの蔓の色は、緑だよ。この後、何か違いがあるのかなあ。 ・同じ日に植えたのに、あさがおさんの大きくなり方も違うんだね。 4 道具の後始末をする。 5 遊んでできたことや楽しかったことを紹介し合う。 ・観察するといろいろ分かるね。 ・もっと大きくなってほしいなあ。 ・これからも観察してお世話をがんばろう。	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ あさがおを観察して気付いたことを関連付けられた気付きに高めるために、友達の気付きとつなぐような問いかけを行う。 ○ これからのあさがおの栽培意欲を高めるために、本時の活動で気付いたことをもとに今後の自分の世話について考えさせる場を設定する。

